
開講科目名：租税法研究演習 1 年（村上先生）（4単位）
開設年次：1年
開設学部：法学研究科修士課程法学専攻
担当者：村上 正城

《授業の概要》

修士論文作成に必要な租税法の基本的な知識及び考え方を身につけるとともに、学術論文の技法や研究の進め方について習得することを目的とする。

授業では、毎回、教員が提示または各自が選択した研究テーマについて報告者を決定し、報告者が自身で作成したレジュメに基づいて報告を行った上で、ゼミ生全員による意見交換・討議を行う。

ゼミ生は、授業での報告の機会などを活用し、修士論文のテーマ選定や関係資料の収集、文献・判例の読みこみなど、論文執筆へ向けて早めの着手に努められたい。

なお、授業での報告に先立ち、所定の期日までに報告資料を本ゼミ掲示板にアップし、ゼミ生による自主ゼミの実施を必須とする。

2. 評価方法

出席及び授業への参加姿勢、レポート、貢献度等を総合的に勘案して評価する。

《テキスト》

金子宏他編『ケースブック租税法〔第5版〕』弘文堂（2017年）

岡村忠生他2名『ベーシック税法〔第7版〕』有斐閣（2013年）

水野忠恒他「ジュリスト別冊 租税判例百選〔第6版〕」有斐閣（2016年）

木山泰嗣『税務判例が読めるようになる』大蔵財務協会（2015年）

その他必要に応じて指示する

《参考書》

金子宏『租税法〔第23版〕』弘文堂（2019年）

中里実・増井良啓編『租税法判例六法〔第3版〕』有斐閣（2017年）

谷口勢津夫『税法基本講義〔第5版〕』弘文堂（2018年）

その他必要に応じて指示する